

URBAN KUBOTA

アーバンクボタ No.29 MARCH 1990

株式会社クボタ

●目次

特集=東海湖と古琵琶湖/やきもの用粘土

1 東海層群

東海層群—1

伊勢湾東岸地域 牧野内猛・中山勝博……………2

東海層群—2

東濃地方 中山勝博……………13

東海層群—3

伊勢湾西岸地域 吉田史郎……………16

2 古琵琶湖層群—上野盆地を中心に— 川辺孝幸……………30

3 やきもの用粘土をめぐる—木節粘土・蛙目粘土を中心に—

①やきもの用粘土 下坂康哉……………48

②瀬戸～東濃地方の木節粘土と蛙目粘土 下坂康哉……………52

③陶土層の堆積環境 中山勝博……………55

④粘土鉱物 倉林三郎……………58

スケールは各写真とも0.2 μ m

左側は、上段が木節粘土、中段は蛙目粘土、下段が風化花崗岩より分離した粘土の透過型電子顕微鏡写真。右側は、左側の各試料から得られた制限視野電子線回折パターン。各試料とも2 μ m以下。(本文p58～p64参照)

上段：木節粘土（県営印所鉱山）

左の電顕写真には、カオリナイトの集合している様子がみえる。個々のカオリナイトは六角形、ときには長方形を示し、薄い板状の結晶をしている。

右の回折パターンは鮮明で、規則正しい六角形を示す。このカオリナイトは規則正しい結晶構造をなしている。

中段：蛙目粘土（県営印所鉱山）

左の電顕写真では、上段の木節粘土と比較して輪郭がぼやけ、より微細になる。右の回折パターンでは、外形に比例してスポットが乱れて円に近くなっている。同じように結晶構造の乱れが大きくなっている。

下段：風化花崗岩より分離した粘土（瀬戸市曾野町）

左の電顕写真では、両側を濃く縁取った細長い結晶が多く見える。パイプの特徴を示している点からみて管状のハロイサイトである。

右の回折パターンでは、円形および平行に走る多くの直線のパターンがみられる。これはハロイサイトが管状をなしているためである。現在の地表で生まれてまもない結晶なので、内部構造の乱れも大きい。

(文：下坂)

発行所=株式会社クボタ 広告宣伝部

大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号 TEL<06>648-2612(ダイヤルイン)

発行日=1990年3月

編集製作=秋本・原田+国東照幸

表紙構成/ネオックス(池上和夫) 表紙写真撮影/DVC(関利晃)

図版作製=スタジオ・ツノ

印刷=大日本印刷株式会社大阪工場